



各国の「ヒロシマ」に関する活動などを寄稿してもらいます

### 占領の過去超え平和交流

去る八月八日、シンガポールの第四十二回独立記念日の前日、私は広島シンガポール協会の田村純治会長とともに、シンガポール政府の外務省を訪れていました。私たちは、日本の二国間団体としては初めて、シンガポールの外務大臣から招かれたのです。



います。その間のシンガポールの人たちの悲惨な体験は、世代を超えて語り継がれています。それだけに、私たちは平和な今の時代を未来へと引き継いでいくために、若者を中心とした相互理解を進めることから始めようとしたのです。

広島シンガポール協会は、一九九五年の発足以来、シンガポールの大学生を中心とする学生交流を地道に続けてきました。私たちのプログラムで広島を訪れたシンガポールの学生は延べ六百人近く上っています。しかも、そのほとんどは自分のお金で広島に来ているのです。

私たちは、広島の企業での三週間の体験研修や、家庭での一週間のホームステイなど、お世話をしています。今回の外務大臣による異例のお招きは、このような地道な活動を高く評価していたいたのでした。

シンガポールは、広島市よりも小さな面積の小国ですが、スイスの研究機関が発表した二〇〇七年版国際競争力ランキングで二位に入ると、ビジョンを掲げたダイナミックな国づくりを進めている若くて勢いのある国です。中国系、マレー系、インド系など多くの民族が暮らす多民族国家でもあります。それぞれ異なる言語・文化・宗教・生活習慣を持ちながら、互いの違いを受け入れて一つの国を築き上げているのです。

広島シンガポール協会は、その発足に当たって、原爆に下る廃墟から平和都市へと復興した広島の地で活動する二国間友好団体として、若者を中心とした人と人との相互理解を深めていくことにより、平和な世界づくりにささやかながらも一役買いたいと考えました。

日本は、第二次世界大戦の際に、シンガポールを三年半の間占領して



広島をこれまで訪れた学生・先生たち約50人との交流会(8月8日)

たし、ひでき 広島市中区出身。広島信用金庫常勤理事兼営業渉外部長。2003年から広島シンガポール協会事務局長。56歳。

